

平成 28 年度 第 4 回大会・研修委員会会議概要

日時：平成 29 年 2 月 10 日（金）14 時～17 時

会場：群馬県立文書館

出席者

石原委員長、森本委員、中村委員、高橋委員、櫛原委員、長谷川委員、藤谷委員、事務局（鈴木、小高、大谷）、次期事務局（尼崎：松岡氏）

1 開会

2 委員長あいさつ

- ・石原委員長より、三重大会の企画・運営及び2年間の取り組みへの労いの挨拶がなされた。

3 報告事項

(1) 第 42 回全史料協全国（三重）大会の総括、アンケート集計について

- ・事務局より共催・協力機関に送付した大会概要報告書及び大会参加者対象のアンケート集計結果を説明し、その後、意見交換をした。

【アンケートの傾向や記述された意見】

- ・好意的な意見が多かった。今後も博物館をテーマとしたものにしたいとの意見もあった反面、市町村の規模では難しいことや、単独館の設置が難しい状況を全史料協としてどのようにとらえるか等の意見もあった。
- ・研修会で話のあった LED の追跡調査結果を全史料協の HP で公開してもらいたい。
- ・地域史料の保存・調査のニーズの多さが感じられた。
- ・総会の時期について、再考を促す意見があった。
- ・災害対応、防災計画は今後も考えていかななくてはならないとの意見があった。
- ・アーキビストの職務基準について、もっと意見交換を行いたいとの意見もあった。
- ・展示ポスターセッションについて、参加が少なめであったが企業との情報共有の場として今後も継続させたい旨の意見があった。
- ・大会の運営については、「適当であった」との意見が多かった。
- ・大会冊子を A4 版にすること、会の正式名称が長いので「全史料協」とすること等がだされた。
- ・会員参加型の活動を取り入れてほしいとの意見も出された。

【意見交換】

<視察・研修会について>

- ・すぐに役立つ技術的なことが求められている印象があった。
- ・（視察）参加人数が多かったと感じた。写真撮影がしたいとの意見もあったが、セキュリティーの面でもお断りした。参加人数が少なければ、もう少しやりようがあったと考えている。
- ・研修会の本数については、適当であった。

<総会、調査研究委員会報告について>

- ・総会時期については、毎回同様の意見が出ている。国立公文書館の行事に合わせるようなことも考えられるのではないだろうか。
- ・学校アーカイブズは（きっちり廃棄されていることもあり）残りにくい資料であるかもしれない。アーカイブズ機関も意識的に収集して残していく必要がある。
- ・アンケート結果は、調査研究委員会に伝えたい。→ 役員会で報告する。

<活動報告について>

- ・日常的な防災計画が、あまりできていないと感じている。青木先生の報告を聞いて、そのあたりのことを意識された人が多いのではないか。
- ・毎回このような報告があってもいいのではないか。
- ・さまざまな災害を合わせて、普遍的な防災活動として位置付ければ毎回報告があってもいいのではないか。
- ・防災等に関しては、全史料協として組織的に動いてほしいとの意見・要望もある。
- ・長期的に報告に取り組んでもいいと考える。

<大会テーマ研究会について>

- ・現実的には、公文書館を単独館として設置することが難しい面がある。
- ・財政的に複合にする場合と、意図があって複合にする場合とがあると思う。
- ・大きな問題を投げかけるという意味では、大変意義深いテーマであったと考える。しかし、全体会では会員からの意見が出にくいと考えるので、分科会のような形で進めても活発な意見が出されるのではないか。
- ・研修会は基本的・初歩的な内容にして、分科会で深めていくようなやり方ではどうだろうか。
- ・分科会があると、テーマを深める上でもわかりやすいと考える。初めての人や初心者にもよいと考える。

<展示・大会運営等について>

- ・展示は、見た人は参考になったと思うが、見る時間が少なく見に行ける人が少なかったのでは。展示を見る時間の設定が必要なのだろうか。
- ・次回は、動線上見やすいフロアに展示・ポスターセッションが展開できる。
- ・館のPRの場としても考えてもらい、参加者を募ってもよいのではないか。
- ・参加する人の意識が様々な現状にある。同一のメッセージというのは難しいのではないか。しかし、全史料協とは何かということに繋がる問題かとも思う。
- ・大会冊子の原稿等は、A4で提出していた。事務局にそれをB5にわざわざ変更してもらっていた。もう時代はA4なので、A4にしてはどうだろうか。

※大会日程、視察場所、大会テーマ等について、委員からアイデアを出してもらったが、今後、アンケートの意見も参考にしながら、次期の委員で検討し、次年度の会議で集約していくことを確認した。

(2) 平成28年度事業報告・決算見込について

- ・事務局より役員会用に提出した事業報告(案)・決算見込について説明した。

(3) 次期大会・研修委員会事務局について

- ・次期事務局が尼崎市地域研究史料館となることを確認した。

4 協議事項

(1) 平成29年度事業計画・予算(案)について

- ・事務局より役員会に提出するH29事業計画案・予算案の報告を行った。会場賃借料について、昨年より増額した形での予算要求を行うことを説明した。

(2) 29年度委員体制について

- ・29年度の委員体制について、意見交換した。前年度開催地として三重県が委員を継続すること、30年度開催予定地の沖縄に委員を委嘱することが確認された。
- ・櫛原委員(藤沢市文書館)、長谷川委員(個人会員)に関しては、引き続き留任ということで内諾を得た。

(3) 第43回全史料協全国(神奈川相模原)大会について

- ・相模原の中村委員より詳細な状況説明がなされ、その後意見交換を行った。

【概略】

- ・現在会場については、予約が済んでいる。

- ・会場の設営（受付・会場等）について説明。
- ・分科会が増えた場合には、必要に応じて早めに予約を入れたい。
- ・会場費について、現時点で約 30 万円（部屋代のみ）。マイク等の備品は別料金。
- ・交流会上は、隣のビルで行う予定（会場は確保）。

【意見交換】

<会場・視察について>

- ・分科会を想定して取れるだけ部屋は確保しておくことが良いのでは無いか。
→ 取り急ぎ一室（セミナールーム 2）を 9 日，10 日両方予約する。
- ・視察に関して、予備費よりバスの費用を出してもらいたい。

<テーマについて>

- ・公文書管理条例を（情報公開の側面から）つくったので、そのあたりをテーマにさせてもらえればと考えている。（法律に関することを中心に、博物館でのアーカイブズの在り方など）
- ・今年は公文書館法公布 30 年である。その歴史を継承していく必要があるのではないかと考えるので、公文書館法と公文書館のようなテーマはどうであろうか。全史料協と公文書館法は切っても切れない関係にあると考える。
- ・30 年の中で、相模原がどのように位置づけられているかというのもおもしろいのではないか。
- ・公文書館法 30 年関連させ、改めて公文書館はどういったものなのかを、つきつめていくことも必要と考える。
- ・公文書館法や公文書管理条例が必要なものであるという、明確な意思が伝わるものがよいと考える。
- ・今年のアンケートを踏まえると、地域史料に関するものが多いので、それをどう整理してつなげるかを考える必要があると思う。また、議論ができる研修にしてもよいと考える。
- ・研修会で議論するには、十分な時間配分を考える必要がある。現状では時間が短い。
- ・相模原大会のテーマは、次回の尼崎の委員会でさらに詰めてもらいたい。

5 その他

- ・特になし

（終了）